

WebORCA クライアント証明書更新について

第二版 2023年7月25日

概要

- 本資料はWebORCA クライアント証明書自動更新機能をまとめたものです。
- クライアント証明書は有効期間が3年となっているため、更新が必要です。
- 自動更新機能は、自己のクライアント証明書を用いて、更新をおこなう仕様のため、期限切れ前に更新をおこなう必要があります。
- 更新せず有効期限切れとなった場合、サービスが利用できなくなりますので、ご注意ください。
また、期限切れ後にクライアント証明書を更新する場合は、別途クライアント証明書を受取りインストール作業が必要です。
- ご利用の端末のうちクライアント証明書が更新されているものがあれば、その端末で管理画面から失効した端末のクライアント証明書を取得することは可能ですが、失効した端末へのインストール作業は必要になります。

概要

- 更新可能な証明書

- CNが clientXXX のクライアント証明書

- 自動更新が実装しているソフト

- WebORCAクライアント

- レセ電ビューア

上記以外で証明書を利用している場合、**自動更新はおこなわれません**ので、注意してください。

(例)

システム管理サイトにアクセスするため、ブラウザにインポートした場合
push-exchangerやオンライン資格確認で設定した証明書

- 参考：CNの確認方法

- 拡張子が.crtファイルをダブルクリックすると、証明書画面が表示されます。

- 詳細タブのフィールド名：サブジェクトをクリックすると、CNが確認可能です。

システム管理サイト

- 前述のとおり、システム管理サイトへアクセスするためブラウザにインポートした証明書については、自動更新はおこなわれません。

手動で更新およびインポートをおこなってください。

1. テナント管理者アカウントでログイン
2. 【証明書管理】をクリック
3. 更新したい証明書をクリック



システム管理サイト

4. 【証明書更新】をクリック
5. 【OK】をクリック
6. 【ダウンロード(zip形式)】をクリックし、
証明書をダウンロード

証明書インポートについては、初回の操作と同様です。

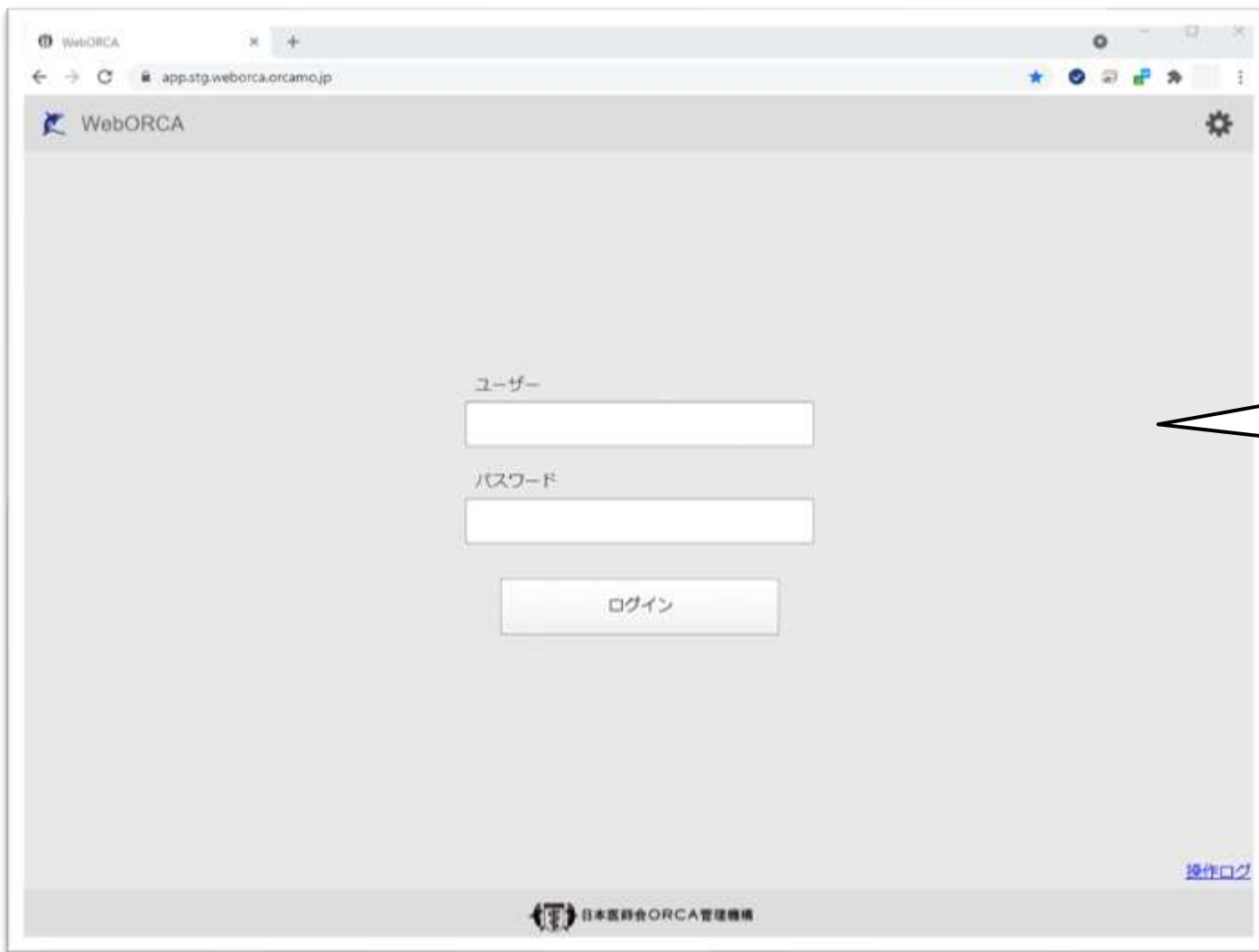


WebORCA クライアント証明書自動更新

- WEBブラウザであるGoogle Chrome上で更新
 - WebORCAにログインするだけで更新確認がおこなわれる
 - 有効期限が残り**90日前**となった場合、更新ダイアログが表示される
 - 画面の誘導に従うことで証明書および証明書のパスワードをダウンロード可能
 - 新しくダウンロードした証明書および証明書のパスワードをダブルクリックで実行し、インポートすることで更新が可能
 - 更新後は、パソコン故障等による証明書紛失に備え、ダウンロードした証明書および証明書のパスワードを外部媒体等、任意の場所にバックアップしておくこと

WebORCA クライアント証明書自動更新

- WebORCA ログイン画面



WebORCAに接続後、証明書
の選択をおこない、ログインしてく
ださい。

WebORCA クライアント証明書自動更新

- WebORCA 証明書の選択画面

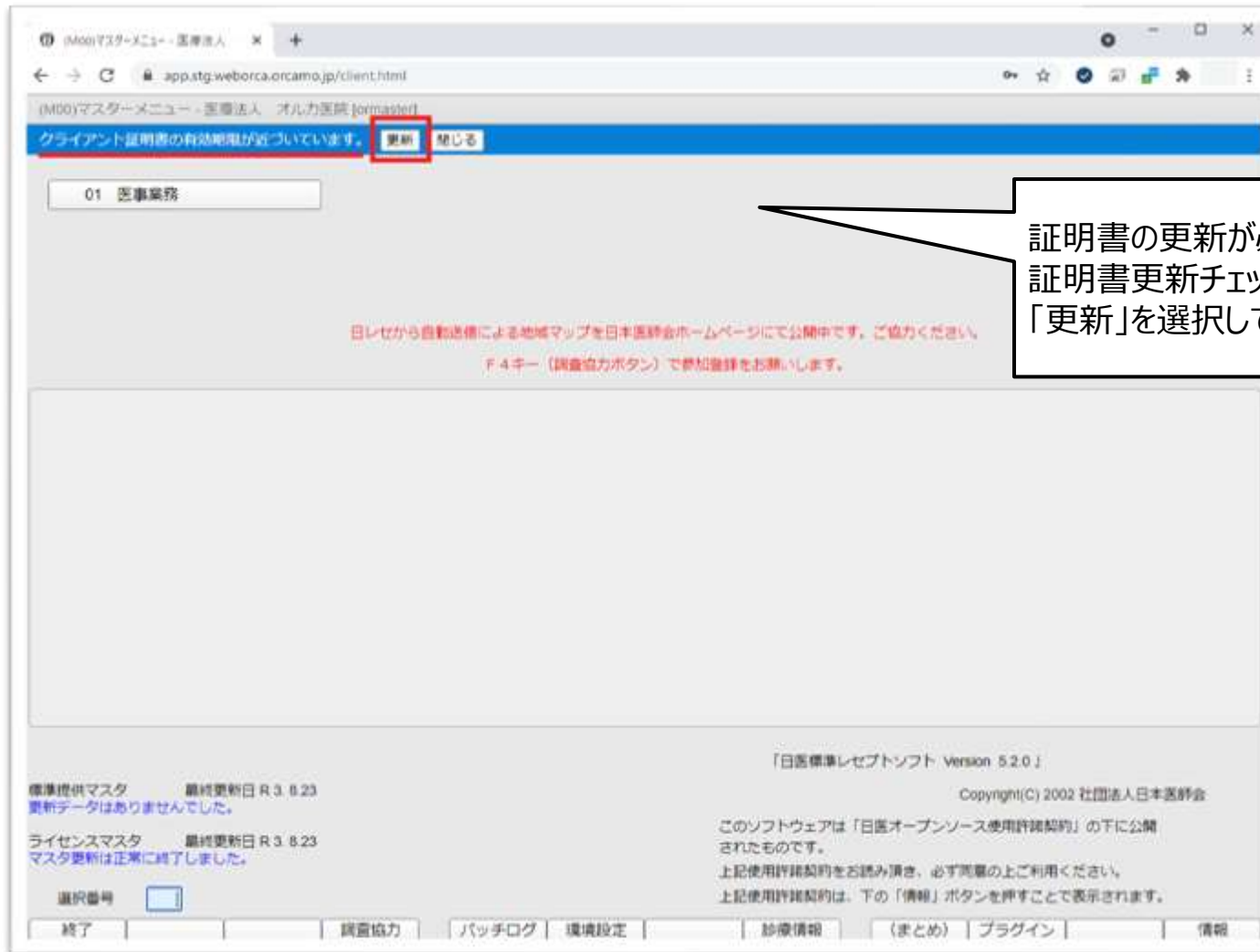


WebORCAに接続した際、証明書の選択画面が表示されますので、証明書を選択し、「OK」してください。

※
ここで選択したクライアント証明が、更新対象であるか判断します

WebORCA クライアント証明書自動更新

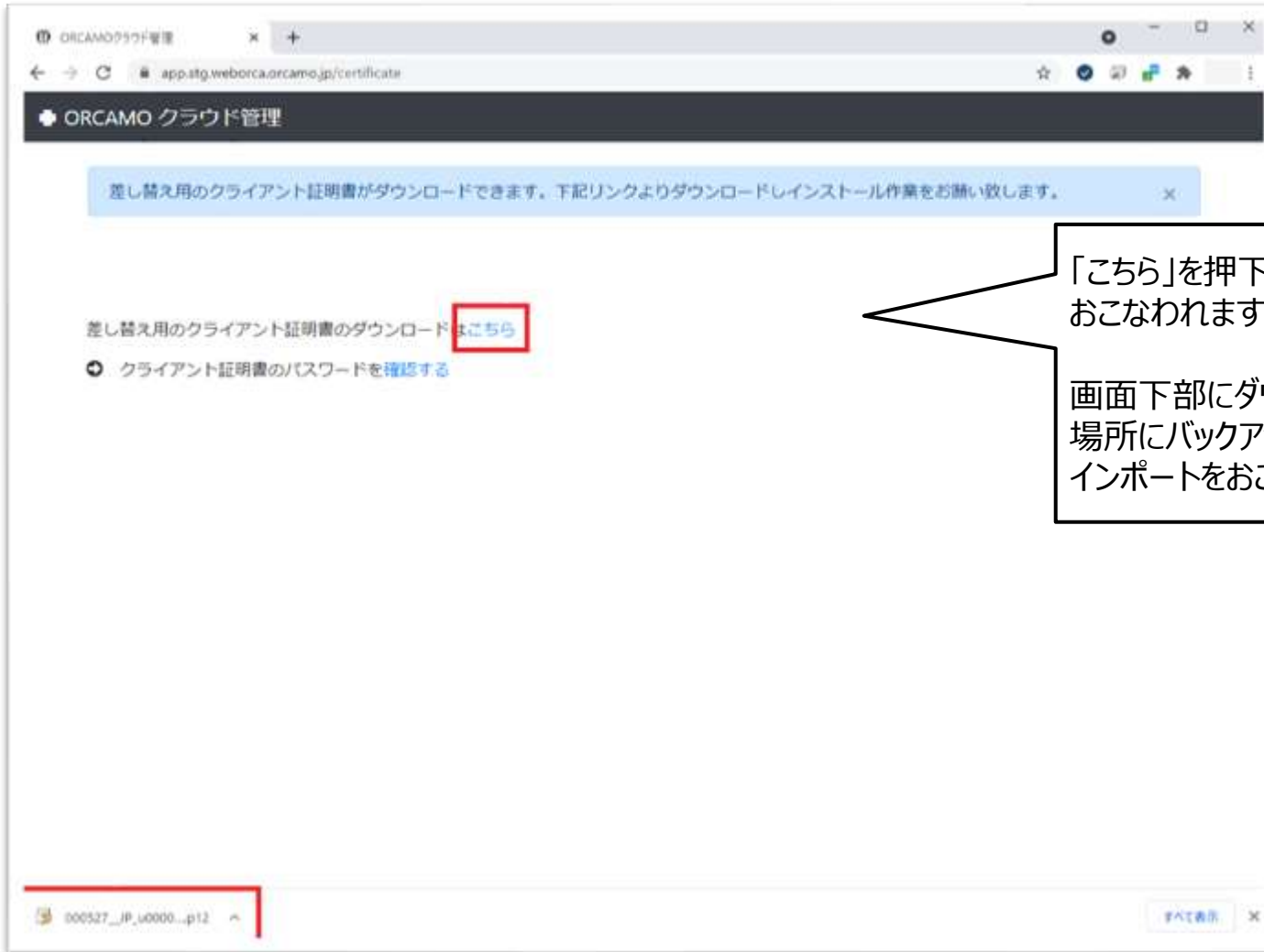
- WebORCA 証明書更新チェック画面



証明書の更新が必要となる場合、マスターメニューに証明書更新チェック画面が表示されますので、そのまま「更新」を選択してください。

WebORCA クライアント証明書自動更新

- WebORCA 証明書保存画面

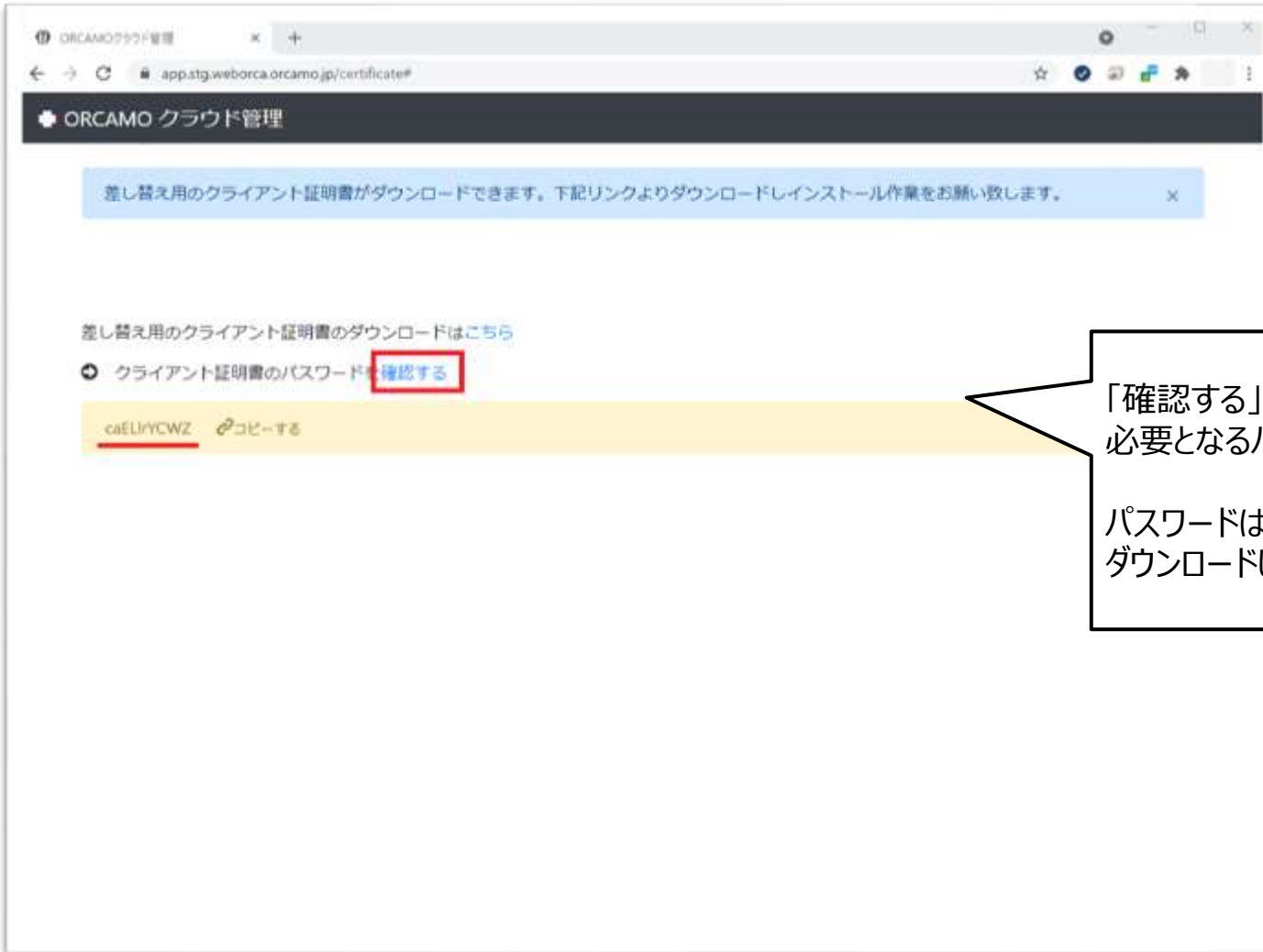


「こちら」を押下すると、証明書のダウンロードがおこなわれます。

画面下部にダウンロードされた証明書を任意の場所にバックアップ後、ダブルクリックで実行し、インポートをおこなってください。

WebORCA クライアント証明書自動更新

- WebORCA パスワード確認画面



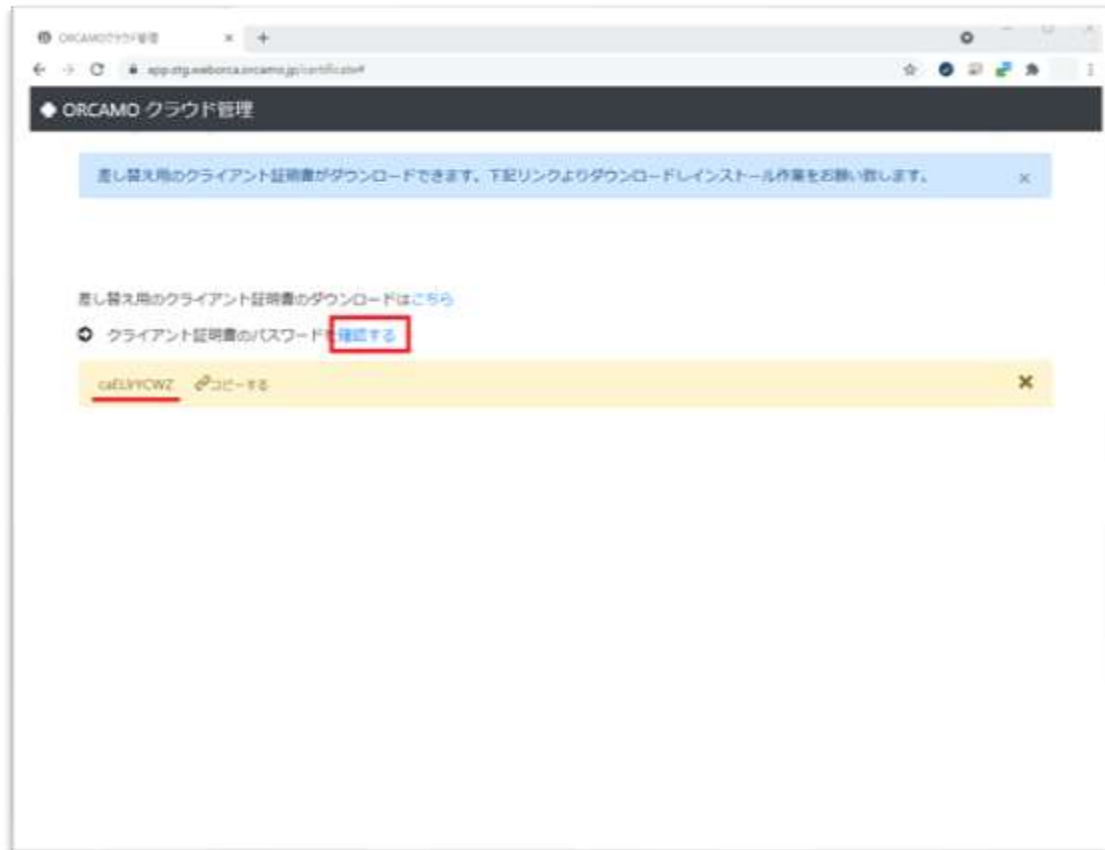
「確認する」を押下すると証明書インポート時に必要となるパスワードが表示されます。

パスワードはテキストファイル等に保存した後、ダウンロードした証明書と一緒に保存してください。

WebORCA クライアント証明書自動更新

・重要

- 更新されたクライアント証明は必ずバックアップし、大切に保管してください
- クライアント証明書のパスワードは、下図赤枠の「確認する」を押下してテキストファイルに貼り付けて保存し、必ずクライアント証明と一緒に保管してください



WebORCA クライアント証明書インポート

- クライアント証明書のインポート 証明書を更新した環境で実施してください

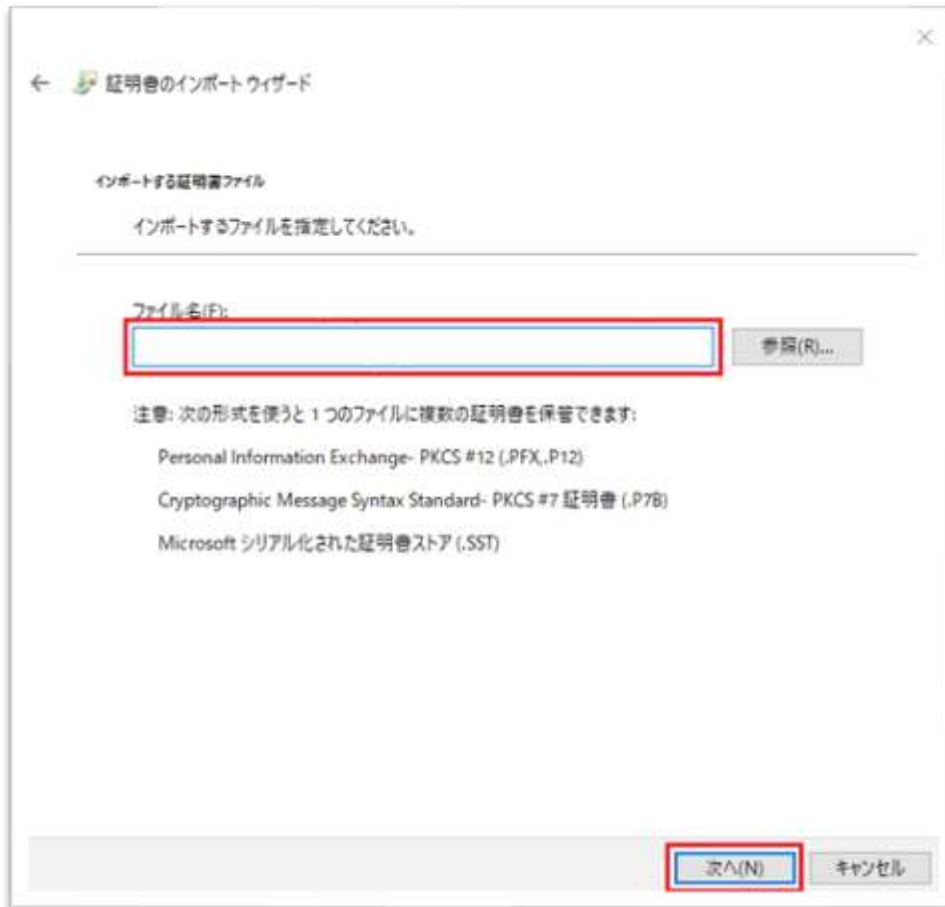


ダウンロードしたクライアント証明：
[xxxxxx_JP_uxxxxxxxxx_clientxxx.p12]を
ダブルクリックしてください。

証明書のインポートウィザードが表示されますので、
[次へ]を押します。

WebORCA クライアント証明書インポート

- クライアント証明書のインポート



インポートするファイルを指定する画面が表示されます。

左図画面ではファイル名が空白となりますが、作業環境はファイル名が記載されておりますのでそのまま[次へ]を押下してください

WebORCA クライアント証明書インポート

・クライアント証明書のインポート

← 証明書のインポートウィザード

秘密キーの保護

セキュリティを維持するために、秘密キーはパスワードで保護されています。

秘密キーのパスワードを入力してください。

パスワード(P):

☐ パスワードの表示(D)

インポート オプション(O):

☐ 秘密キーの保護を強力にする(E)
このオプションを有効にすると、秘密キーがアプリケーションで使われるたびに確認を求められます。

☐ このキーをエクスポート可能にする(M)
キーのバックアップやトランスポートを可能にします。

☐ 仮想化ベースのセキュリティを使用して秘密キーを保護する(エクスポート不可)(P)

☒ すべての拡張プロパティを含める(A)

次へ(N) キャンセル

パスワードの入力画面が表示されます。

テキストファイルに保存したパスワードを入力して
[次へ]を押下してください。

WebORCA クライアント証明書インポート

- クライアント証明書のインポート



証明書ストアの選択画面が表示されます。

そのまま[次へ]を押下してください。

WebORCA クライアント証明書インポート

- クライアント証明書のインポート



証明書のインポートが完了しましたので、
[完了]を押下してください。

「正しくインポートされました」のメッセージが
表示されますので、[OK]を押下することで
作業が完了となります。



WebORCA クライアント証明書自動更新

- クライアント証明の更新およびインポート後

- 再度WebORCAへ接続をおこない、正しくログインできることを確認してください。
- ログイン時、下図のように更新前、更新後の証明書が同一名で表示されますが、どちらを選択しても問題ありません。



レセ電ビューア

- レセ電ビューア

- バージョン：2.2.13(提供日：2020年10月14日)以降

- ※

- バージョン：2.2.7(2020年4月13日提供の) でも自動更新機能は実装しているが、Windows版でp12ファイル保存の不具合があったため

- 有効期限が残り3ヶ月となった場合、更新ダイアログが表示される

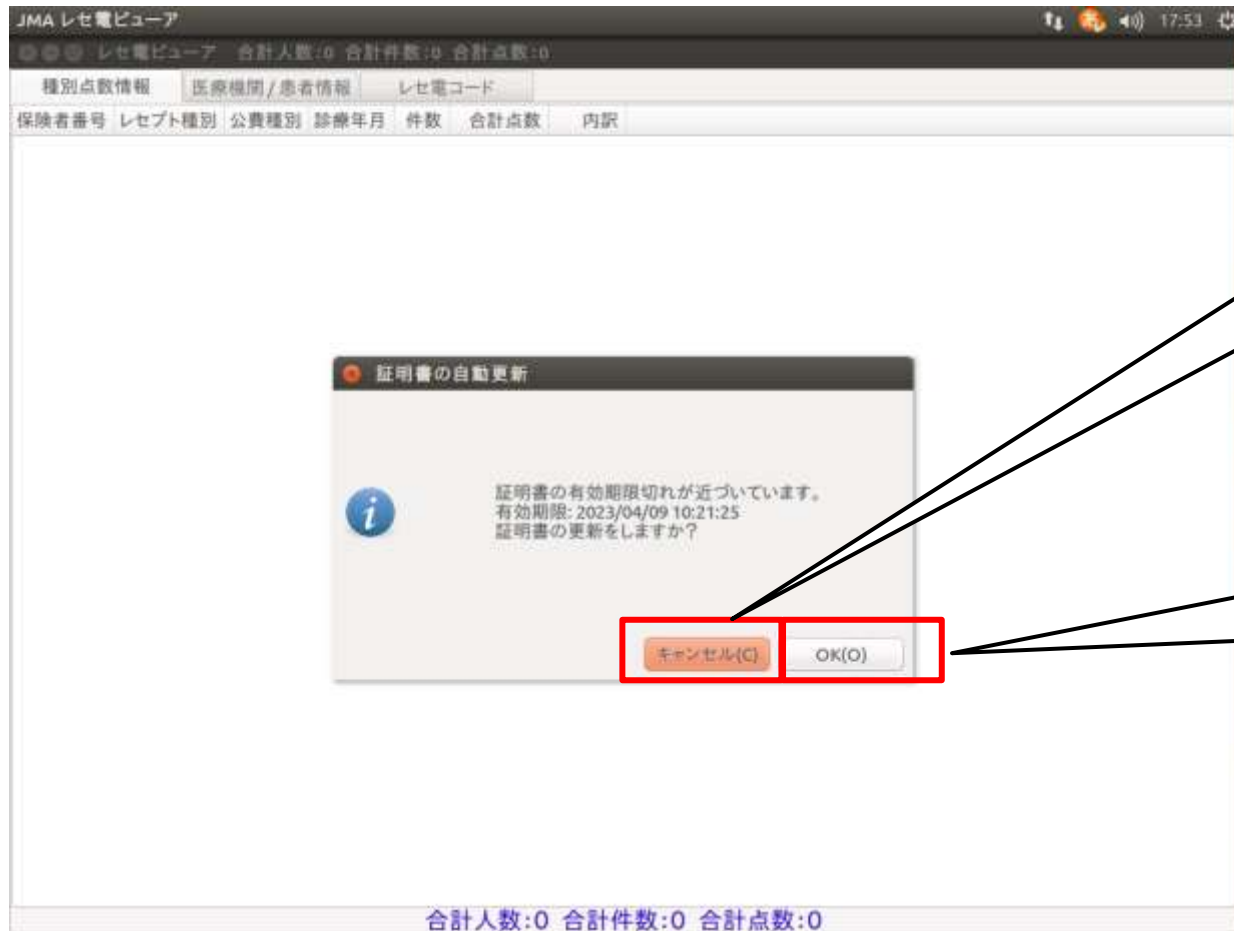
- 画面の誘導に従っていけば更新可能

- 更新した証明書を同一フォルダに.yyyymmddという拡張子で保存し、レセ電ビューアの証明書設定も自動更新される

- 自動更新後は、パソコン故障等による証明書紛失に備え、レセ電ビューアの設定画面で指定してあるファイルのバックアップを取得すること

レセ電ビューア

- ・レセ電ビューアでの画面遷移(更新確認画面)



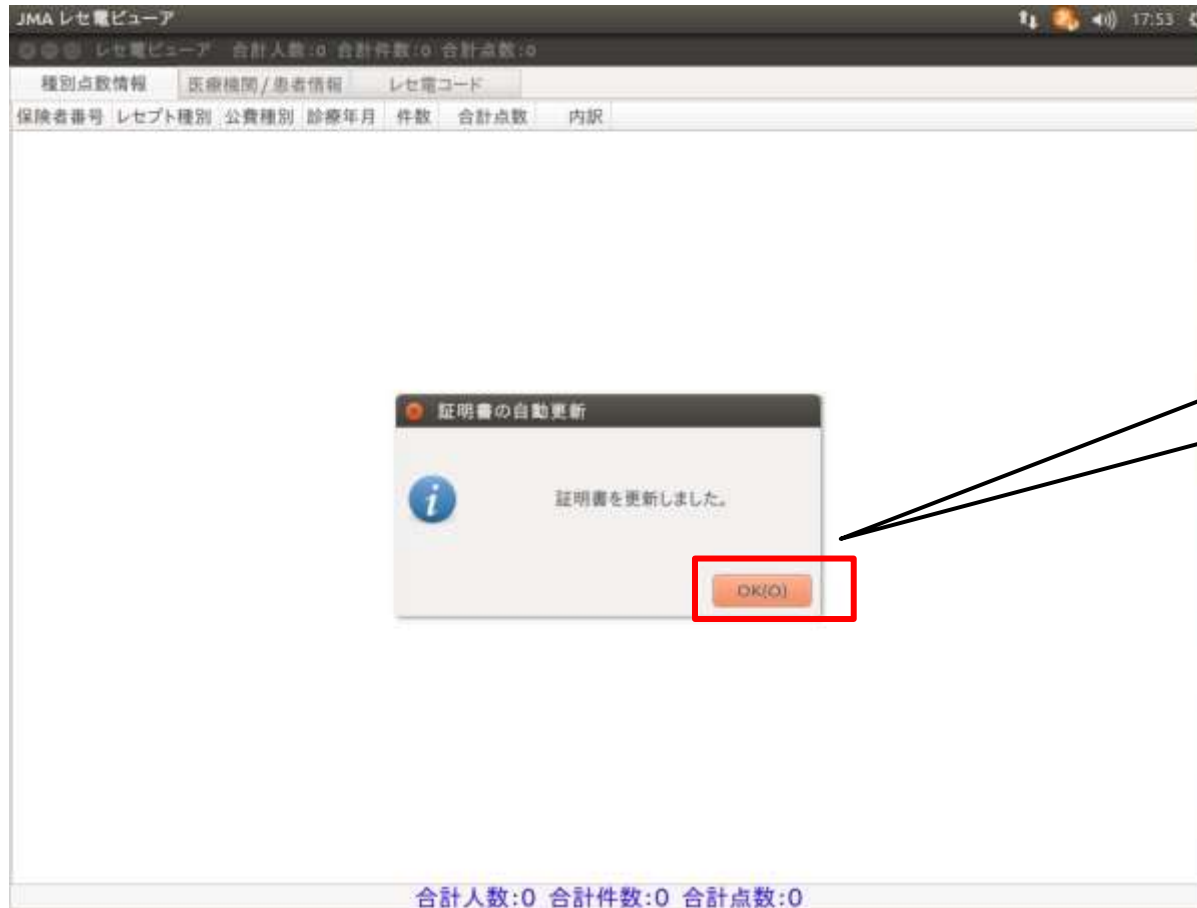
キャンセルボタンを押下した場合は、クライアント証明書の更新はおこなわず、そのままレセ電ビューアが起動します

クライアント証明書を更新する場合はOKボタンを押下

※画面はUbuntu環境ですが、Windows版も同様

レセ電ビューア

- ・レセ電ビューアでの画面遷移(証明書更新完了画面)



クライアント証明書の更新が完了し、OKボタンを押下するとレセ電ビューアが利用可能です

※画面はUbuntu環境ですが、Windows版も同様

API

- API
 - 別紙－クライアント証明書更新API利用することで更新された証明書および証明書パスワードを取得することが可能

※別紙－クライアント証明書更新APIの資料はAPI協議会会員サイトにて限定公開